

環境部

実施計画事業

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	5	項	1	目	1	説明資料	21	項目番号	2(2)
--------	----	------	---	---	---	---	---	---	------	----	------	------

事務事業名	減量化・資源化啓発事業	所管部課名	環境部 環境政策課
-------	-------------	-------	--------------

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	未来につなぐ環境の保全・創出				分野別計画	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
	中柱	自然環境の保全・活用と循環型社会の推進					環境教育・環境学習マスタープラン
	小柱	③循環型社会の推進					
目標	市民の意識向上のための啓発を行い、ごみの減量化と資源化を推進する。						
目標達成に必要なこと	職員による直接的な啓発活動や刊行物等による啓発						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみトーク及びごみ問題学習会の実施(町内会・自治会、大学生を対象) ・子どもごみ教室の開催(幼・小・中・高校生を対象) ・ごみダイエツ推進員活動の推進 ・「ごみと資源物の分け方・出し方パンフレツ(日本語・外国語)」の発行 ・広報誌、ホームページを活用した啓発 						

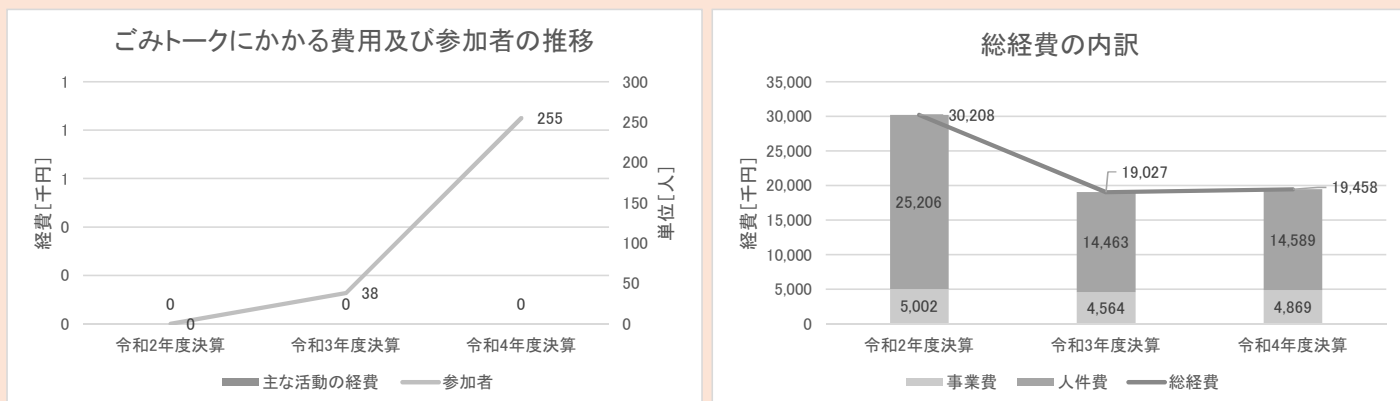
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① ごみトークの実施	参加者	0	38	255	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② 子どもごみ教室の実施	参加者	2,060	1,393	2,598	人
③ ごみ分別パンフレツの発行	発行部数	14,000	25,000	13,000	部

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	5,002	4,564	4,869	6,137	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	0	0	0	0	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	5,002	4,564	4,869	6,137	千円
b 人件費	25,206	14,463	14,589	14,350	千円
正規職員	3.0	1.3	1.3	1.3	人
再任用職員(短時間を含む)		0.7	0.7	0.7	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)					千円
総経費(a + b)	30,208	19,027	19,458	20,487	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	特になし	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	新型コロナの落ち着きを受けて開催件数が増加した。
----------------------------------	------	----------------------------------	--------------------------

年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	ごみトークの活動実績について、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点からごみトークの実施はなく、令和3年度についても新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響が続いたため参加者数が低くなってが、4年度に入り新型コロナの落ち着きを受けて増加している。 総経費については、人員減と再任用の活用により人件費が減少している。
-------------------------------------	--

今後の事業の方向性	ごみの減量化・資源化の普及・啓発の対象となる市民は、出生・死亡、転出転入などで常に入れ替わっていくことから切れ目ない取り組みが必要であり、当面は維持継続していく。
-----------	---

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	5	項	1	目	1	説明資料	26	項目番号	5(1)
事務事業名	クリーンよこすか推進事業								所管部課名	環境部 環境政策課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	未来につながる環境の保全・創出					分野別計画
	中柱	自然環境の保全・活用と循環型社会の推進					
	小柱	③循環型社会の推進					
目標	きれいで明るく住みよい心豊かなまちづくりの実現						
目標達成に必要なこと	クリーンよこすか運動を周知・啓発し、きれいで明るく住みよいまちづくりのために重要となる市民の「自分ごと」としての意識向上を図る。また、運動母体の「クリーンよこすか市民の会」及び「クリーンよこすか地区市民の会」の活動を支援し、クリーンよこすか運動の普及を図る。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンよこすか市民のつどいの開催及び運営 ・ポイ捨て防止、路上喫煙防止などの街頭キャンペーンの実施 ・開国花火大会等のイベント時の清掃活動 ・横断幕やポスター、立看板を用いたクリーンよこすか運動の啓発 						

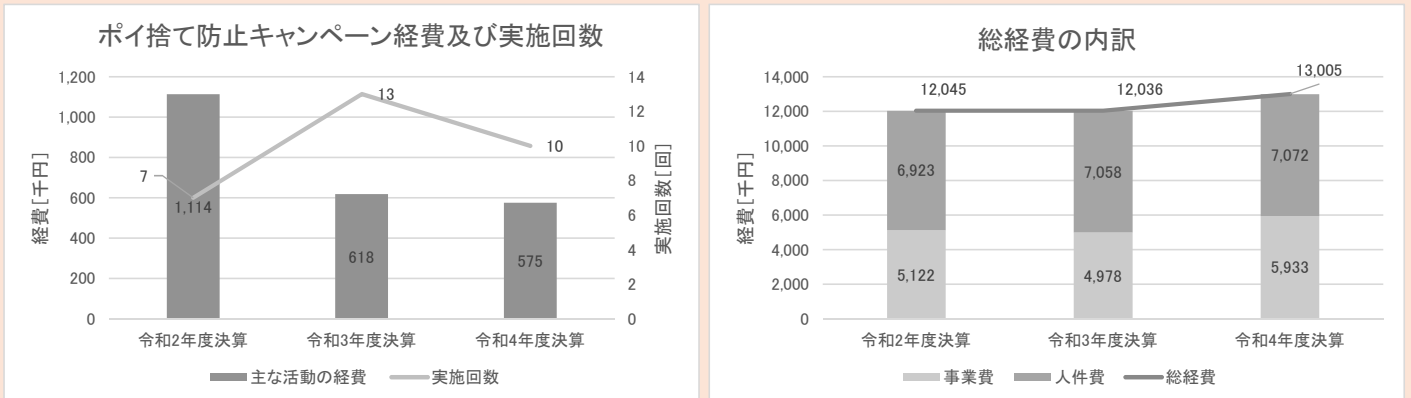
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① ポイ捨て防止街頭キャンペーン(推進・強調月間の啓発活動)	実施回数	7	13	10	回
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
② クリーンよこすか市民のつどい	参加者数	-	-	377	人
③ クリーンよこすか運動強調月間におけるキャラバン隊キャンペーン	参加者数	886	715	1,853	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	5,122	4,978	5,933	6,189	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	1,114	618	575	424	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	4,008	4,360	5,358	5,765	千円
b 人件費	6,923	7,058	7,072	7,034	千円
正規職員	0.5	0.5	0.5	0.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	2,722	2,885	2,856	2,877	千円
総経費(a + b)	12,045	12,036	13,005	13,223	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を一部中止していたが、令和3年度は内容を一部変更し実施した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	特になし
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和2年度はキャンペーン活動に必要なポケットティッシュを作製したため経費が他年度と比較し高くなっているが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度、令和3年度はティッシュ配りは行わず在庫が残っていたため、令和3年度、令和4年度のキャンペーン活動関係経費が大幅に減額した。総経費について、令和4年度は3年ぶりに「クリーンよこすか市民のつどい」を開催したため、令和3年度と比較し増額した。		
今後の事業の方向性	きれいで明るく住みよい心豊かなまちづくりの実現のため、「私たちの町は私たちの手によって」を合言葉に、清掃活動やポイ捨て防止を呼びかける啓発活動、また地域とのふれあいを高めるあいさつ運動など継続して実施し、次世代に繋いでいく。		

令和5年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	5	項	1	目	2	説明資料	29	項目番号	2(1)
事務事業名	生ごみ減量化推進事業								所管部課名	環境部 環境政策課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	未来につなぐ環境の保全・創出				分野別計画	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
	中柱	自然環境の保全・活用と循環型社会の推進					
	小柱	③循環型社会の推進					
目標	燃せるごみの中でも大きなウエイトを占めている生ごみの減量化を推進する。燃せるごみが減少することで、二酸化炭素の排出削減及びごみ処理経費の削減につなげる。						
目標達成に必要なこと	市民に対して生ごみ処理機器の機能を周知・啓発することで、生ごみ減量化に対する意識の向上を図る。						
具体的な事業内容	補助対象となる生ごみ処理機器の購入者に対して、購入経費の一部を補助する。						

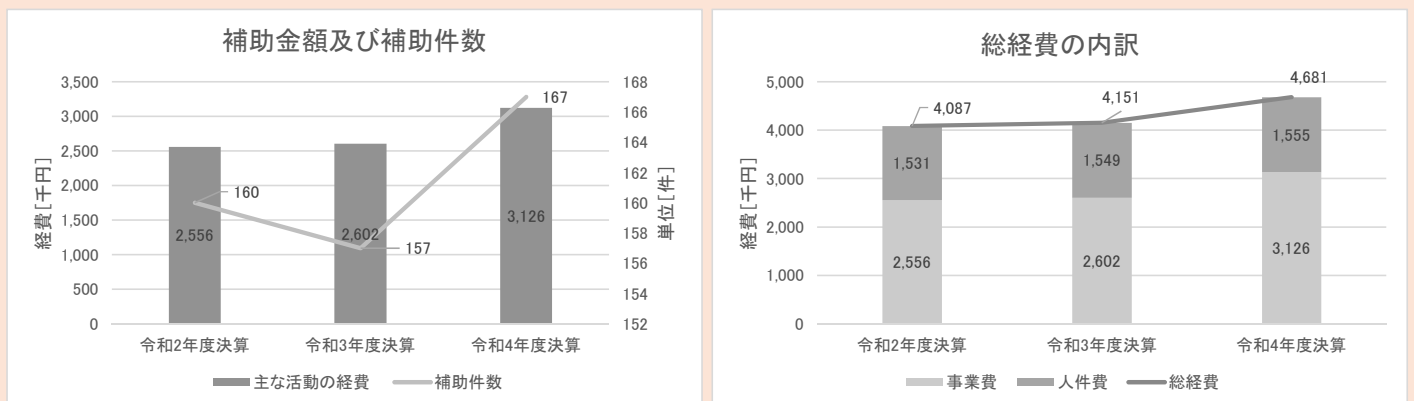
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
① 生ごみ処理機の周知・啓発	補助件数	160	157	167	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度決算	令和4年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	2,556	2,602	3,126	3,485	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	2,556	2,602	3,126	3,485	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)					千円
b 人件費	1,531	1,549	1,555	1,518	千円
正規職員	0.0	0.0	0.0	0.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.3	0.3	0.3	0.3	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	4,087	4,151	4,681	5,003	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R2年度⇒R3年度	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R3年度⇒R4年度	非電動型生ごみ処理機の補助率が50%から75%に引き上げるとともに補助金増予算も増額した。理由は、ゼロカーボン推進の一助となるべく電気を使わないタイプの処理機器の増加を狙った。
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	補助件数について、3年間ほぼ横ばいである。経費については、令和4年度に補助率の引き上げに合わせて補助金予算を増額したことで経費は増加している。補助件数に対して経費の増加が大きい原因は、高額機器の購入の増加により、1件当たりの補助金額が増加したことによる。	
今後の事業の方向性	生ごみ処理機を使うことで燃せるごみが減少し、CO2の排出及びごみ処理経費の削減につながることから、引き続き事業を継続していく。	